

設計者からの  
メッセージ

Message

将来を見据えた百年の計  
市民に愛され、災害に強い  
庁舎を目指しました



内藤・小川原・尾日向  
設計共同企業体

代表 内藤 廣さん

建築家・東京大学名誉教授・総長室顧問。昭和25年神奈川県生まれ。早稲田大学大学院修士課程修了。内藤廣建築設計事務所代表。平成13～23年東京大学大学院教授、副学長を歴任。日本建築学会賞（海の博物館）、第42回毎日芸術賞（牧野富太郎記念館）などを受賞。主な作品に松川村の安曇野ちひろ美術館がある。

市庁舎は地域の要です。東日本大震災における三陸の街を見ても、地域の要である市庁舎が被災したかどうか、復興の在り方を大きく左右したことは言うまでもありません。本市庁舎の設計に当たっては、まずこのことを念頭に置き、さまざまな災害に対する防護機能を備え、使い勝手がよく機能的で、なおかつ市民に愛され、地域を長期にわたって支え続けるような質実剛健な建物となることを目指しました。



内藤さんが設計した安曇野ちひろ美術館

地震に対しては免震構造を採用し、耐震性能はもとより、さまざまな情報系の防護に備えます。2つの吹き抜けは、内部に統一感と明るさをもたらします。4周にめぐらせたバルコニーは、いざという時の避難路になるとともに、安曇野の強い日差しを遮り、省エネルギー効果をもたらします。さらに、地場産の木材を多用し、市民に親しまれる温かな空間をつくり出します。市庁舎建設は、まさに百年の計です。後の世代にも継承しうる誇り高い建物が、皆さんの温かいご支援とご協力で建ち上がるものと信じています。

市民の皆さんに愛され、  
親しまれる庁舎

●開庁記念イベント

昨年、募集した市民参加の「新本庁舎建設記念イベント」のアイデアに記念植樹など18件の提案をいただきました。皆さんからの提案を参考にイベントを開催しますので気軽にご参加ください。

●ワンストップサービス

市民サービスに関する窓口を1階に集約し、ほとんどの用事が1階で済みます。

●開放スペース

4階の会議室は、市民活動の場として閉庁日に市民の皆さんに開放します。また、北アルプスが望める眺望スペースは、観光客をはじめ市内外の多くの皆さんが利用できるようなようにします。



1階フロア窓口付近のイメージ

新本庁舎の概要

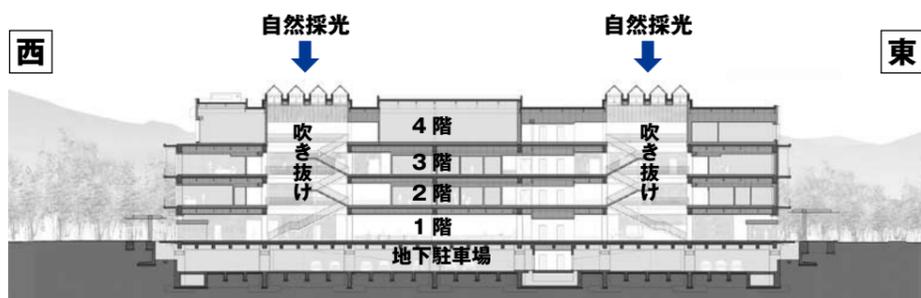
●本庁舎配置

- 主な入口を、東側と西側に設け、東側の正面入口にはデマンド交通「あづみん」が乗り付けられる、ロータリーを設置します。
- 既存駐車場のほか、身障者駐車場や地下駐車場を含め、約260台分の駐車スペースを確保しています。
- 既存施設との共存を図り、一体感を持った敷地としています。
- 隣接する建物に圧迫感などを与えないよう配慮しています。



安曇野の自然と景観  
に配慮した庁舎

低層4階の建物です。外観には安曇野産の木パネル。内装にも木材を使用し、安曇野らしい温かみのある庁舎とします。



- 1階：市民サービスと憩いのゾーン
- 2階：市長室、危機管理、まちづくりのゾーン
- 3階：議会、教育委員会、総務ゾーン
- 4階：大会議室、書庫、機械室ゾーン

庁舎断面イメージ

質実剛健で災害に強い庁舎

シンプルな形状でコストに配慮し、長寿命の建物とします。災害に強い  
大地震に備え、免震構造を採用し、丈夫で耐久性のある建物です。また、ライフライン寸断後も72時間は災害対応が持続できるように、非常用発電機などを設置します。

環境に配慮

空調や消費電力軽減に配慮した設備を備えた庁舎にします。  
・自然換気、ナイトパージ(※)を導入します。  
※夏の夜間に冷えた外気を取り入れ、室内の熱を排出する省エネ手法  
・執務室は、居住域のみを温度調整する「床吹き出し空調」を採用します。  
・2カ所の吹き抜けに自然採光を取り入れます。  
・夏の日射しをバルコニーで遮り、室温の上昇を抑えます。  
・太陽光発電やLED照明、高効率・高出力照明を導入します。